

新たな送電網構築を

京大大学院
諸富教授

「集中電源時代遅れ」

高知市

備投資が必要な場合、費用を誰が、どれだけ負担するかという基準

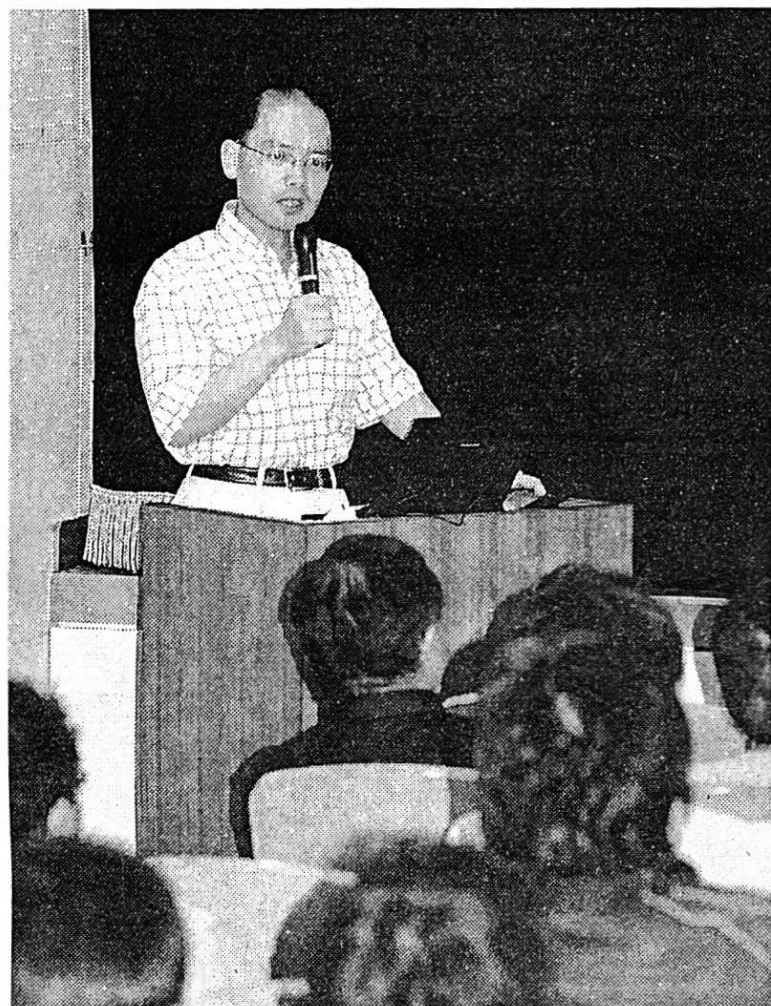
も不明確だという。諸富教授は「原子力や火力による集中電源から大都市に向けた一方向の送電網は時代遅れ。みなさんからの問題提起が必要」と訴えた。

主催した同協議会は2011年3月、農業用水路などで電気を生む「小水力発電」を普及させようと、研究者や環境問題に取り組む人たちで発足した。

(笹島康仁)

「20世紀型の送電網は時代に合わない」――京都大学大学院経済学研究所の諸富徹教授は29日、高知市棧橋通4丁目の市立自由民権記念館で開かれた高知小水力利用推進協議会主催の講演会で訴えた。

民らが立ち上げた配電会社を住民投票によって選んだ事例を紹介した。一方、日本では電力の自由化が進まない。送電量の上限を理由に、発電事業に参入できないケースが全国で多発しているという。諸富教授は「電力会社には送電網への接続義務があるにも関わらず、電力会社の一方的な判断で接続が拒否されている」と指摘。設



「送電網への新しい投資が必要」と語る諸富徹教授
(高知市立自由民権記念館)

長野県飯田市で「再生可能エネルギー導入審査会」の委員を務める諸富教授が講演。チエルノブイリ原発事故をきっかけに、ドイツ・シーエーナウ市で、市